

武汉大学留学報告書



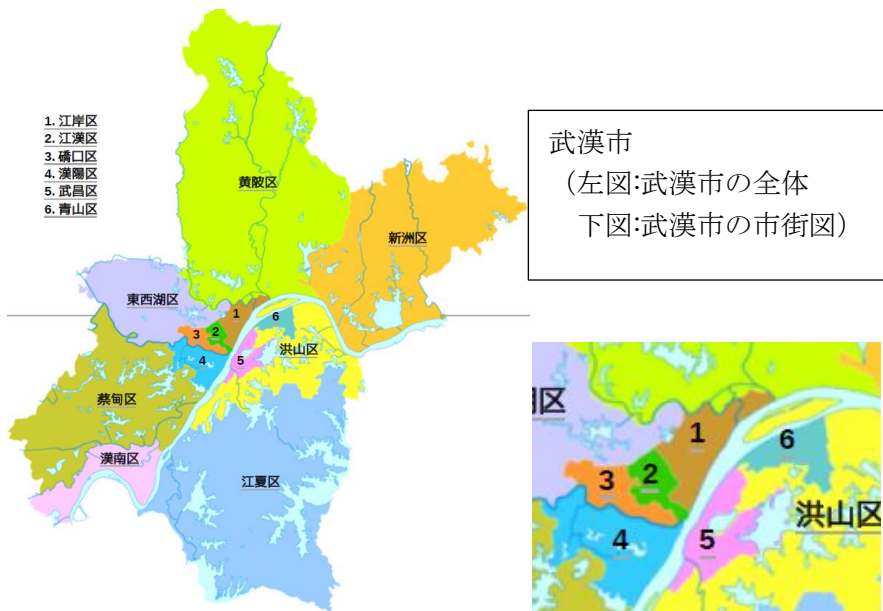
151039 川侯智洋

I. はじめに

私たちは4月9日から5月18日までの約6週間、中国湖北省にある武漢大学に交換留学生として短期留学をしてきました。この留学でどんなことをして、どんなことを学んだのかをまとめましたので、今後武漢大学に行きたい人の参考になれば幸いです。

II. 武漢の地理

武漢市は、中華人民共和国の中部、湖北省の東部、長江とその最大の支流漢江の合流点に位置する都市です。そのため中国中部地方及び長江中流域のメガシティ、湖北省の省都および交通要衝でもあります。武漢市の総面積は8569.15kmです。武漢市の市街地は長江と漢江に分割され、漢口・漢陽・武昌の3つの部分から構成されます。



そして武漢大学は、中華人民共和国湖北省武漢市武昌区に位置する総合大学で、中国でも歴史がある国家重点大学の一つです。今の状態は2000年、武漢水利電力学院、武漢測繪技術大学、湖北医科大学と合併したものです。風光明媚な珞珈山麓、東湖に面し、広大なキャンパスを誇ります。大学も近代的な建物と、旧式の建物が調和し、校内にも水と緑が豊富。春になると日中国交正常化以来植えた大量の桜が咲きます。この桜は、武漢大学でも有名な観光地となっています。

III. 武漢での学生生活

私たちは、迎賓楼という寮の一つに泊っていました。そこは短期留学生だけでなく、ほかの留学生も生活していました。そして、武漢大学生のほとんどの人は寮に住んでいます。寮のほうが多くの人と寝食を共にでき、友達もたくさんできるとおっしゃっていました。昼食は主に食堂や、7tt という近くのコンビニで買ったり、大学内にある個人経営のお店に行っていました。私たちが生活していたのは医学部キャンパスでしたが、それでも大きな大学であるため選択肢が多くうらやましく思いました。

大学構内にはところどころに個人経営らしきお店が散見され、日本とは違った景色を見ることができました。そのお店はメインキャンパスで多く見られました。大学構内で道路で果物を売っていたり、銀行や喫茶店、果てには観光地まで兼ね備えています。

私たちは夕食を主に、ハンストリートかメインキャンパス近くの百貨店で食べました。私たちはいろいろなお店に行きたかったため、そこによく行きました。値段は観光客用のため、ほかの場所に比べると高いです。

授業風景は後述しますが、日本と異なり中国で特徴的な時間がありました。武漢大学では昼休みの時間が2時間ととても長いです。これは昼に一回昼寝の時間を設けることで、午後の授業の効率を上げるという意味が含まれているように感じました。これは小学校から取り入れられているそうです。

大学生は、教科書はほとんどが購入かインターネットで買うそうです。タオバオというアマゾンのような通信販売を使っているそうです。また購入では教科書がとても安く売っていました。日本の本に比べると安かったです。日本では、英語の本を和訳したものが売られているために、原著に比べ2倍くらい値段が異なります。しかし武漢大学は、留学生クラスの授業で英語を使っているため原著を使用できます。さらに割引制度を設けているらしく、通常のさらに半分の値段で売られているため、とても安かったです。

少し話題が変わりますが、衛生環境について述べます。衛生環境は日本と比べるとあまりよくない印象でした。道路には至る所にごみ箱が設置されており、ごみのポイ捨ては少ないように感じました。環境改善に努めているように感じました。しかし、ごみの分別などはほとんどされておらずそこは今後の問題になると思いました。また日本とは異なりトイレットペーパーは常備されておらず、また流してはいけないところが多かったです。

交通の利便性は福島と比べると圧倒的に良かったです。バスに関しては多くのバスが走っており、バスの運行も10分に1本の割合で走っていました。しかし一方で交通規則はあまりよくない印象でした。日本と同じ感覚でいるととても怖いと感じました。頻りにクラクションが鳴り、割り込みなども多く通行線もあまり守っていないように感じられました。現在地下鉄を急ピッチで作っているため、至る所で工事をしていました。地下鉄は日本と違っている点がありました。地下鉄に入る前に、一度手荷物検査を経てから入場しなければなりませんでした。それ以外はさほど変わりませんでした。

また、武漢大学の友人に連れられて、長江を結ぶ船にも乗船することができました。長江は流域面積がとても大きく、頻繁に使われるかと思いましたが、現在はいくつもの橋が架かっているためそこまで現地の人を使う印象はありませんでした。しかし、観光客がとても多く、川の上は風がとても気持ちいいため一度は乗ってみてもいいと思います。

中国では日本以上に、スマホを用いたQRコード決済という形で現金離れが進んでいました。私も使ってみたがとても使いやすかったです。使い方は日本人が使うと想定するなら、銀行口座を開きそこからアプリを紐づける、という形をとりました。中国では外国人が口座を作ることを近年規制し始めたらしく、作るのがとても難しかったです。また、私が中国語を使えなかったこともありうまく意思疎通ができず、最終的には作ることができましたが、それまでに4店舗で断られました。私はアリペイというアプリを使いました。そのアプリでは友人間のお金のやり取りも大変スムーズなため、割り勘といったこともやりやすかったです。

インターネット環境は、多くのサイトを見るができなくなっていました。中国ではファイヤーウォールにより許可されたコンテンツしか見れません。そのため、何も用意がないとline, Twitter, Google, といった主要なコンテンツを見るができませんでした。どうすればよいかというと、方法は主に2つあります。一つ目は香港経由のsimを事前に買っておき、それを中国で使う方法です。もう一つは、wifiや中国でsimを買った後に、VPNというものに加入する方法です。二つとも使ってみました。寮のwifiはとても使いにくく、そのため

VPN が使いにくかったです。一方病理学講座での wifi は非常に使いやすかったため、その時は VPN を使うほうがよかったです。どちらも持っていくのがいいと思いますが、もし持っていくなら sim を持っていくことをお勧めします。

また、私は銀行口座を開くために、現地で sim を購入しました。私が使ったのは China Mobile です。いくつかの店舗を回りましたが、多くの店舗では日本のパスポートを身分証明書として使うことができなかったのが原因です。実際に使ってみての感想ですが、武漢市内では不便はありませんでした。日本とは異なり初めにお金を渡してその分の通信券を使えるというシステムになっています。もし足りなくなった場合は事前にお金をチャージすることで改めて使えるようになるそうです。

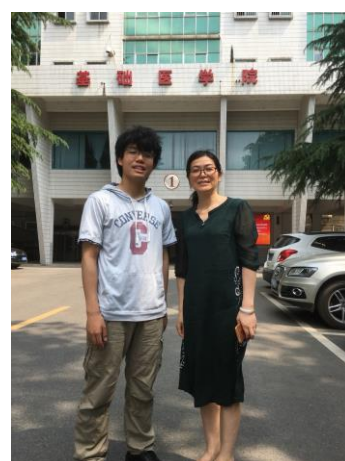
IV. 授業内容

この交換留学では、福島県立医科大学と同じように武漢大学の基礎講座に配属されてそこで行動をします。私は、生理学講座に配属されました。そこで Cheng 先生という人に出会い、一緒に今後の方針を決めました。私は、授業を受けながら一部の実習に参加する、という形をとりました。授業は1日に2時間ほどしかありませんでしたので、生理学講座の授業以外にも時間がありました。そのため、ほかの福島県立医科大学が配属されている、病理学講座にも足を運び授業を受けました。以下に病理学の話が含まれているのはそのためです。

まず授業の前に、病理学のカンファレンスについて触れます。私は、病理学の Cheng 先生の厚意に甘え、朝の病理学のカンファレンスに参加しました。そこではほとんど毎日行われ、病理学の先生が最新の知識を発表し吸収していました。使用言語はすべて中国語であったため、わからないことがほとんどでしたが、その中で知っている知識があったり、先生に開設をしてもらったりと、ある程度理解はできました。これは毎朝8時から行われたため、健康的な生活が送れたと思います。

中国人クラスと留学生用クラスの大きな違いは使われる言語です。中国人クラスは中国語を、留学生クラスでは英語を使っての授業でした。しかし、病院実習では、中国人をみます。そのため留学生は、ある一定期間に中国語のテスト (HSK) で規定値を受けなければならなかったり、医学中国語の授業を受ける必要があったりしました。そして、生理学と病理学の授業に参加しました。それぞれ中国人向け、留学生向けのクラスで授業を受けました。内容は、日本で受けたものとほとんど同じでした。そのため、言葉の意味は分からなくても内容はわかるといった奇妙な状態に陥っていました。また、この二つのクラスでは授業態度も大きく異なっていました。中国人クラスではほとんどの人がまじめに授業を受けており、日本以上に皆が熱心に取り組んでいた印象でした。一方留学生用クラスでは、まじめな人がいる中多くの人が途中から堂々と入ってきて出席したり私語が多く先生に何度も注意されてようやくおとなしくなる、という光景を何度も見ました。これは実際に入る際の入試難易度やそれまでの中国の実情などが多分に関係しているように感じました。

そして、生理学の実習にも参加しました。ウサギを使った、ホルモンおよび副交感神経を使った血圧の変化、に参加しました。武漢大学では一つの実習で4匹のウサギを使っていま



お世話になった
Cheng 先生 (右)

した。また、電子顕微鏡の使い方の授業も受けました。以前組織学の授業を受けましたが、その時と違う種類のものを受けることができました。

あるいは、武漢大学は総合大学であることをとても感じました。それは多様な授業内容に表れています。例えば、外国語で日本語を学びたい人のために休日に大学の授業が設けられていたり、医学部の学生が陶芸の授業に参加していたりなどです。とても自由な校風なのか、私たちが突然参加してもどの授業でも快諾して下さいました。これは単科大学である福島県立医科大学にはない、大きな利点だと思います。それを学べただけでもこの留学は良いものであったといえると思います。

V. 病院実習

私たちは、武漢大学の厚意に甘え、人民医院、中南医院にお邪魔しました。この二つは、武漢で3位4位となる病院だそうです。実際病院内は常にととても混んでいました。そして脳神経外科（中南医院）、精神科（人民医院）、内科（中南医院）として血液内科、呼吸器内科、神経内科、消化器内科を、産婦人科（中南医院）、救急科（中南医院）、心臓内科（人民医院）を見学しました。

脳神経外科は二回見学しました。1回目は、後述するフォーラムがあった直後だったこともあり、担当して下さった人が私たちを覚えて下さったため、とても友好的でした。朝のカンファレンスでは、最新の病気などを発表し、そのあと新米の医師がそれぞれの患者の診断結果と治療方法を提示しそれに対して指摘をするという形をとっていました。カンファレンス後には回診がありました。今回の担当医は、主にモヤモヤ病患者を担当していたらしく、多くのモヤモヤ病の患者を診ていました。そして、化学療法の準備ができたところで解散となりました。2回目もまた朝のカンファレンスから始まり、そのあとに回診がありました。前回と異なる先生の後について行きました。回診は4人一組で行われるそうですが多くの患者を持っており、一人当たり30秒程度で終わらせていました。そして回診を途中で切り上げて、簡単な朝食を済ませた後に、髄膜種の手術を行いました。5時間以上にもわたって手術を見学することができました。

精神科（人民医院）では、まず朝のカンファレンスが行われました。そして、回診がありました。回診では解放病棟と閉鎖病棟の両方を見学することができました。初めての精神科ということもあり、ほかの診療科では見ることはない独特な雰囲気を感じることができました。



精神科の回診（人民医院にて）

た。

内科（中南医院）は4つの科を見学できましたが、そのうちの血液内科と呼吸器内科について詳しく話したいと思います。まずは血液内科に行きました。そこで朝のカンファレンスがあり、そのあとに回診がありました。そして呼吸器内科に移動しました。呼吸器内科では朝の回診後であったことから、おもに診療科の施設を見学しました。何人かお患者さんを見せていただき胸水貯留の聴診などをさせていただきました。

産婦人科（中南医院）では、カンファレンスの後、子宮全摘の腹腔鏡手術を見させていただきました。その技術は世界でも認められているらしく、そのことに誇りを持っているそうです。救急科（中南医院）では、一通りの話を受けた後自由に病院内を見学できました。また、その時に、ガラスで手首を深く切った人の手術も見学

できました。

心臓内科（人民医院）では、主に研究施設と病棟の説明を受けました。

中国では、全ての診療は中国語で話されていたためほとんどわかりませんでした。だからこそ、その診療科の雰囲気を知ることができました。私たちは、病院実習をまだしていなかったため日本の病院との違いがわかりませんでした。そのため、これからの病院実習では日本と中国との国同士の医療の違いも考えながら実習を行おうと思います。

VI そのほかの見学

脳外科の国際フォーラムに参加しました。フォーラムでは日本の東北大学の藤村先生に出会いました。日本で発見されたもやもや病について詳しい臨床診断を話されていました。中国のフォーラムでは初めに英語が話された後中国語で再度翻訳された文を読むという形になっていました。学生時代に研究内容の発表を聞くことができたのはとてもいい経験になりました。

また、日本語のスピーチコンテストに行きました。そこでは知り合いの人も出ていたこともあり、大変良い経験になりました。今までは日本人が世界の人とどうかかわっていくべきかという内容で話し合うことがありました。しかし、それは一方通行の感覚を覚えていました。日本語のスピーチの課題は日本と中国のこれからの関係、と評しており、中国人の立場から話を聞くことができました。そこで一方通行ではなく、お互いに同じように考えているのだなど、とても共感を覚えました。

VII 武漢で出会った人たち

私たちは、多くの人に出会い、助けられました。その人たちを紹介します。

武漢で知り合った人々を大きく分類すると下の2つに分けられます。

i) 武漢大学医学部の人

実は留学する前に一度日本で会っていた人がいます。その人には多くのことで支えられました。初日にはコンビニの場所や消耗品の買い方、良いお店の場所、何回もお世話になりました。この人がいなければ、もっと生活基盤ができるまで時間がかかったと思います。

また、病理の実習で出会った人もいます。一緒に黄鹤楼に行ったり、食事を食べに行ったりしました。また、生徒手帳を作る際に、全員が中国語を話せなかったため、そのときはとてもお世話になりました。



友達と食事した写真

留学生クラスの人だけでなく、中国人クラスの人とも仲良くなりました。前回の交換留学生の人もお世話になったらしく、積極的に話しかけてくれました。また、日本語ス

ピーチコンテストでも友人ができました。

また、福島に留学生としてきた人とも会うことができました。その人たちとも食事をしたり、一緒に遊びに行ったりしました。

ii) 日本語の授業の人たち

医学部で会った人達に進められて、日本語の授業にも出席しました。

その時に友達になった人たちです。武漢大学ではほかの大学からも授業に参加していらしく、武漢大学以外の人たちとも仲良くなることができました。一緒にご飯を食べたり、遊びに行ったりしました。

VIII 武漢大学交換留学を経て

現在日本と中国間では関係は冷え込んでいます。しかし、日本人と中国人も仲が悪くなったかというところではなかったように思えます。日本に様々な人がいるように、世界にも、中国にも様々な人がいることを感じました。今回、私が出会った人のほとんどは、とても親切な人でした。私はとても恵まれた環境だったとあらためて感じました。

これまでの話で分かると思いますが、武漢市は大都市です。一つ一つの建物がとても高く利便性も全く違いました。また、服装でも異なり、日本ほど固いイメージはありませんでした。この点は福島との違いだと思います。また様々な問題を抱えているという話も聞きました。例えば、一人っ子政策の反動で20代の人たちの男女比が大きく男性側に傾いています。また、今はふたりっ子政策にしていますが、いずれ人口問題が起きるといわれているらしいです。中国では、2100年ごろに人口が減少するだろう、という話を聞きました。また、受験戦争が日本以上に苛烈です。単純に日本の人口の10倍あるので当然と思いましたが、留学生の人は、ほとんどずっと勉強をしている、という評価を言っていました。知識ばかり先行していて、手技などはできなくなっているとも言っていました。そのほかにもお互いに評価をしていて、違う価値観の人たちが同じ場所にいるからこそ、別の視点からの意見や考えが生まれていて、その一部に触れることができるとも興味深かったです。また、ほとんどの高校では恋愛を禁止しているという話を多くの人から聞きました。その反動からか、大学では割とオープンな雰囲気が見られました。その点でも日本と違うように思いました。

自己紹介をしている際に日本について最初に思いつかれたものの多くは漫画でした。例えば、unnatural やナルトといったドラマや漫画です。外に出ていると時々日本のアニメのTシャツを着ている人もいました。改めて、漫画は日本の大きな産業で文化であることを再認識できました。

また、留学生クラスの知り合いとはとても興味深い話を聞きました。主に卒業後の進路のなどです。留学生用のクラスでは、ほとんどが英語で授業を行っていたため、みんながUSMLEを受けるのかと想像していました。しかし、それを受けずに母国の試験を受ける人も多いと聞きました。私は、6年生の終わりに日本の医師国家試験は受けるとは思っていましたが、外国の医師国家試験も受けようと思えば受けられることを知り、私の見識がとても広がったように感じられました。

そして、海外への敷居が低くなったように感じました。それは一度海外に行って生活することで少し慣れたというのが理由だと思います。いままで日本でしか生活をしたことなかったなのでその経験が得られたのはとても大きいと思います。

私は、初めての留学ということもあり、行くときにとても大きな不安を抱えていました。

まず、言語は通じるのか、医学知識は足りているのか、などです。そして、あちらで有意義な生活を送れるのだろうかという不安もありました。しかし、その不安はある意味杞憂に終わりました。ですが、それ以上に大事なことがあると思いました。それは、自分から話していく積極性だと思います。この留学では一緒に行く先生はいなく、すべて自分たちで解決しなければなりません。ほかに一緒に行った人たちを頼りながら、現地で出会った人を頼りながらようやく生活ができました。それができたのは一番初めに小さくても一歩を踏み出すことだと思います。友達になるにもその一歩が必要です。それを磨けたのは大きいと思います。

IX これから武漢大学に行きたい人へ

武漢大学は、他に交換留学できる大学に比べ、できることの幅がとても大きいです。授業を受けて今までの知識に深みをつけるのもいいです。日本と異なる環境を生かして研究をやらせてもらうのもいいです。自分は何をやりたいのか、見つけ出すためにいろいろな人に会うのもいいと思います。中国の大学だから中国語しか話せないわけではなく、福島県立医科大学以上に多様な人、多様な授業があります。私はこの留学を経て、新たな考え方が生まれたと思います。自分には難しそうだなと考えている人も、このプログラムを受けてみる価値はあると思います。ぜひ参加してみたいと思います。

X 謝辞

今回の留学が実現できたのは和栗教授、関根教授をはじめとする多くの先生方、企画財務科の國分さん、多くの職員の方々のおかげだと思います。そして、武漢大学で我々を迎えてくださった先生方、事務員の方、学生の皆様も含め、関わった人たちに厚く御礼を申し上げます。